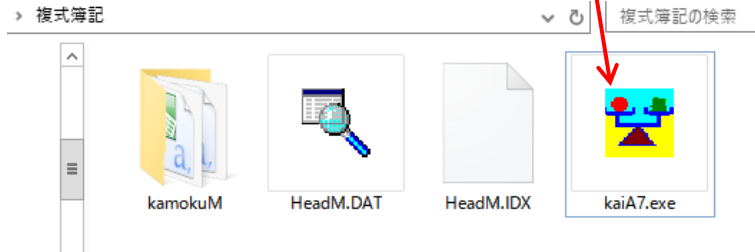


ソフトの起動と最初の設定

1. ソフトの起動

複式簿記のフォルダを開いて、実行プログラム **kaiA7.exe** を開くとユーザーパスワードの入力画面が出ますので、そのまま **OK** ボタンを押すと、次のような画面になります。

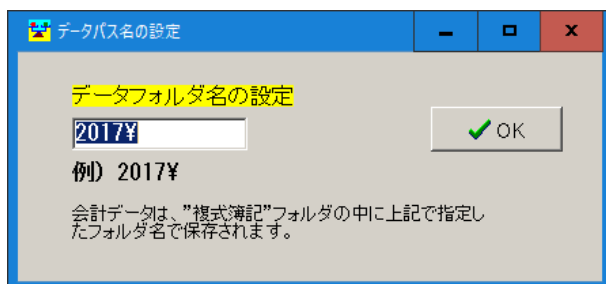


(注意)

- “複式簿記”のフォルダはどこに置いても実行できますが、**program files** の中に置くと仮想領域にデータが保管されるようになりますので、推奨は **C** ドライブか **D** ドライブの直下においてください。
- ソフトの起動は、デスクトップにショートカットを作成すると便利です。
- サーバーに“複式簿記”のフォルダを置いて運用する場合は、同時にソフトを起動させないでください。
- ソフトの起動の途中で、ウイルスソフトからの“セキュリティー警告”が出る場合がありますが、“許可”する方向で選択してください。

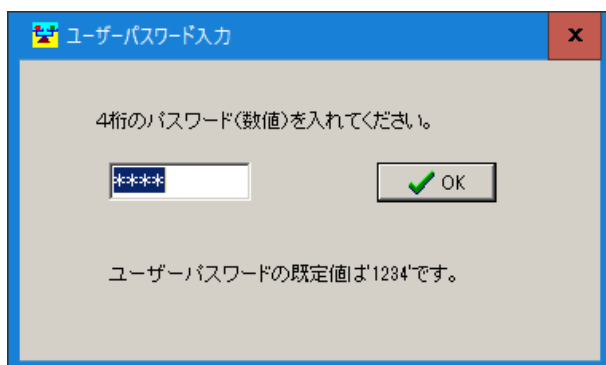
2. データベース名の設定

最初の段階では、データベース名が設定されていないので、次のような画面が出ます。
会計データは単年度処理になりますので、既定値の状態ですべての項目を **OK** ボタンを押してください。



3. ユーザーパスワード

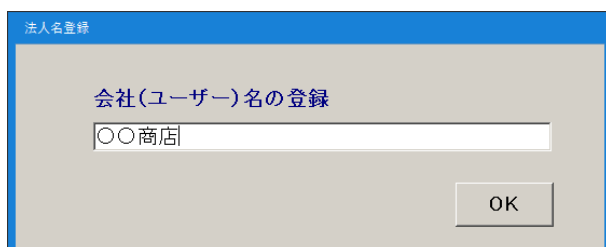
ユーザーパスワードの入力画面では、そのまま **OK** ボタンを押してください。



このユーザーパスワードは後で、
初期設定メニュー ⇒ 会計期首 の画面で変更できます。

4. 会社（事業）名の登録

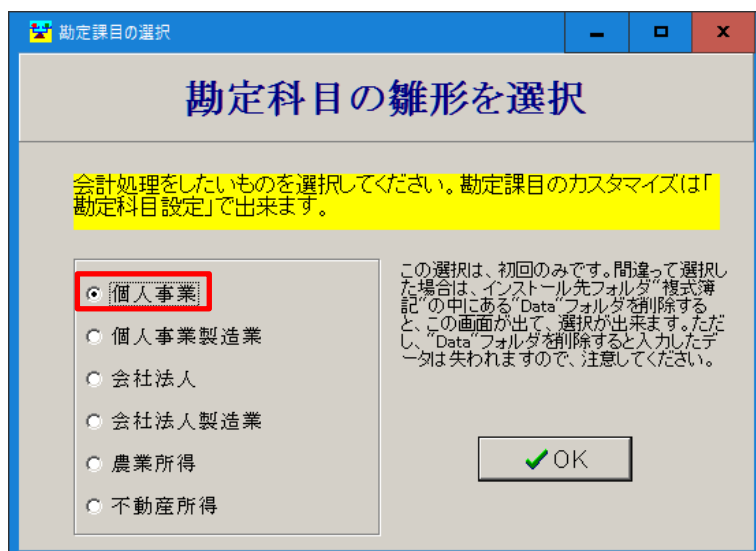
会社（事業）名の登録画面が出てきたら、下記の例のように会社名を入れてください。



5. 勘定科目のひな型登録

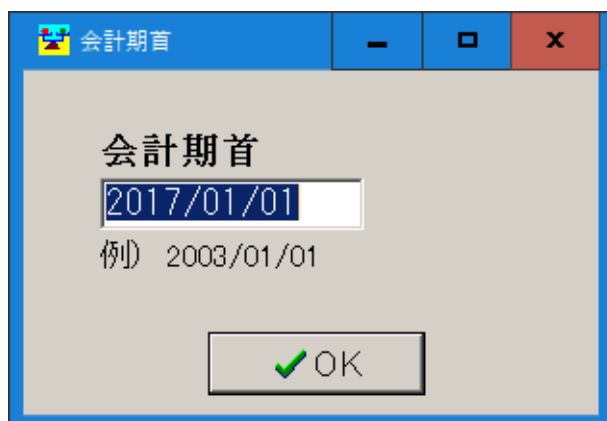
勘定科目のひな型を選択します。

勘定科目のひな型は標準的なものを用意していますが、あとで自由に変更が出来ます。



6. 会計期首の入力

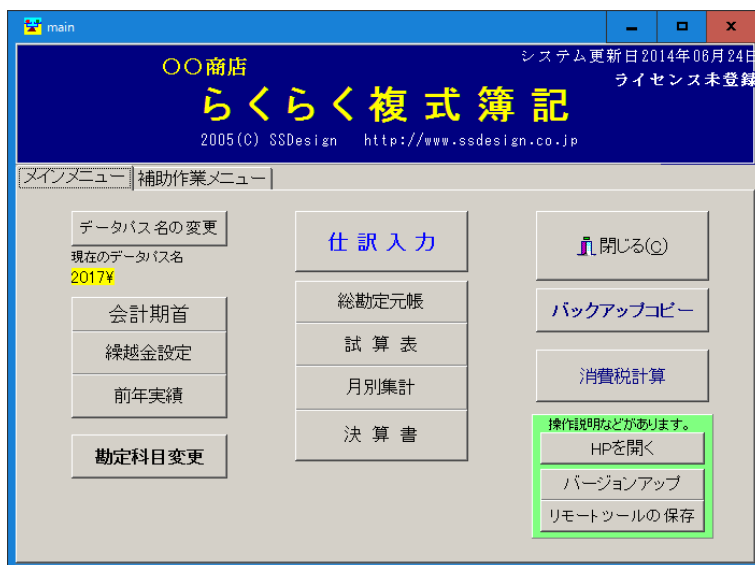
次のような画面が出ますので、会計期首を入れてください。



- 個人事業の場合は1月1日が会計期首になります。
- 必ず西暦年号で入力してください。

7. メインメニューの画面

以上の初期設定の操作が終わったら次のような画面になります。
次回からこの画面がすぐ表示されます。



以上の操作で、最初に設定する基本事項が設定できました。

【補足】

- 勘定科目の“ひな形”の選択は、新規にデータベース名を設定した最初しかできませんが、もしやり直したい場合は、下図の例のように新規に作成されたデータフォルダを削除すると、もう一度作成しなおすことができます。ただし、運用途中でデータフォルダを削除すると、仕訳データ等も削除されますので、“勘定科目設定”の画面で、勘定科目の調整をしてください。

